

R

KANSAI
UNIVERSITY
NEWSLETTER

Man is a Thinking Reed.

Reed

No. 20

February, 2010

関西大学ニュースレター
発行日：2010年(平成22年)2月25日
発行：関西大学 広報室広報課
大阪府吹田市山手町3-3-35
〒564-8680 TEL.06-6368-1121
<http://www.kansai-u.ac.jp/>



感動をありがとう

●バンクーバーオリンピックフィギュアスケート男子
高橋大輔・銅メダル獲得「日本初のメダル」
織田信成…価値ある7位入賞



Olympic Winter Games



●バンクーバー五輪で高橋大輔さん(大学院2年次生)と織田信成さん(文学部4年次生)の関大コンビが活躍。高橋選手はフィギュア男子で日本男子史上初の銅メダルを獲得。織田選手は初出場にもかかわらず7位入賞を果たしました。
ご声援、ありがとうございました。



2010 VANCOUVER

● 現場から ● 経営も研究も



現地に足を運んで「声なき声」に耳を傾けよう。

●佐藤 茂雄 ●京阪電気鉄道株式会社 代表取締役 CEO

●楠見 晴重 ●学長

今年、開業100周年を迎える京阪電気鉄道の佐藤茂雄CEOは、中之島線の新規開業などを通じて、大阪の街づくりについても積極的に発言してきた。4月からは大阪商工会議所会頭に就任する予定で、関西復権に全力投球するという。関西大学の経営審議会委員も務める佐藤氏と楠見学長は、くしくも“水”にかかわりがあり、現地調査で“現場”を重視するという共通点があった。

楠見 渋沢栄一といえば、第一国立銀行や東京ガス、王子製紙、日本郵船、東京証券取引所、帝国ホテルなど、実に数百社の企業の設立・経営にかかわり、日本赤十字社の設立など社会活動も行っているんですね。

佐藤 そうです。しかし三井、住友、安田などのような、自らの財閥を作らなかった。渋沢は個人の利益ではなく、多数社会の利益のために事業を起こすという発想の人です。私は、渋沢のそういった原点こそ、わが社のDNAと自覚しています。それを今一度、経営理念として掲げ、社会に問いかけていこうというわけです。

◆青春時代を“水”とともに過ごして

楠見 ところで、佐藤さんは鉄道マンになろうという志で入社されたのですか。

佐藤 いいえ。偶然というか、運命というか……。私は1965(昭和40)年入社で、時代は高度経済成長の真っただ中。大学時代は勉強もせず、ボート部一筋でした(笑)。合宿所が天津の石山にあり、朝夕練習があって、月曜日だけが休み。就職シーズンには御堂筋のビジネス街に行き、名だたる会社に飛び込んで、採用してほしいと。当時は、体育会系で元気がいい若者は試験なしでOK。あちこちの企業の内定を取り付けては喜んでいました。けれども、次を受ける度にお断りを入れるものですから、そのうち受けるところがなくなって、わが京阪電鉄へ。結果的には青春を謳歌した琵琶湖、淀川水系で仕事をしていますから、何かの縁だったのでしょうか。そういえば、学長は水の研究もなさっていますね。

楠見 私は地盤工学が専門です。学生時代はゼミの教授に、あちこちの現場の調査に連れて行かれました。地盤工学といっても幅広く、一般の方には分かりにくいと思うのですが、私の場合、道路や鉄道などの斜面の安定性、トンネルなど地下構造の安定性、それと地下水の維持・管理が主な研究テーマです。

例えば、京都府の城陽市や八幡市は、京都の府営水道の建設が遅れていて、政策的に自己水を確保する必要性から昭和40年代後半ごろに地下水を使うことになりました。八幡市は上水道の約50%を、城陽市は約80%を地下水でまかっています。地下水は自治体の境界とは関係なく地下にあります。どれくらい採っているのかという調査・研究が欠かせません。

阪神淡路大震災の後、京都に同程度の震災があったらどうなるのかということが問題になりました。京都には重要な文化財や歴史遺産が多いですからね。そこで国と京都市が共同して活断層調査を行いました。その資料と他の調査資料を詳しく分析し、地下構造を精密に推測して計算していくと、京都盆地の地下には約211億トン、琵琶湖の水量に匹敵する地下水が蓄えられていることが分かりました。この研究は2002年にNHKスペシャルで放映され、大きな反響をいただきました。さらにこの研究を発展させて、地下水をコントロールする、安全でエコロジカルな都市づくりを研究中です。また、京都市伏見区の酒造組合と連携協定を結び、酒造りに使われる地下水の安全性なども調査しています。

◆「事業を通して社会貢献する」渋沢栄一に学ぶ

楠見 今年は京阪電気鉄道の開業100周年ですね。おめでとうございます。

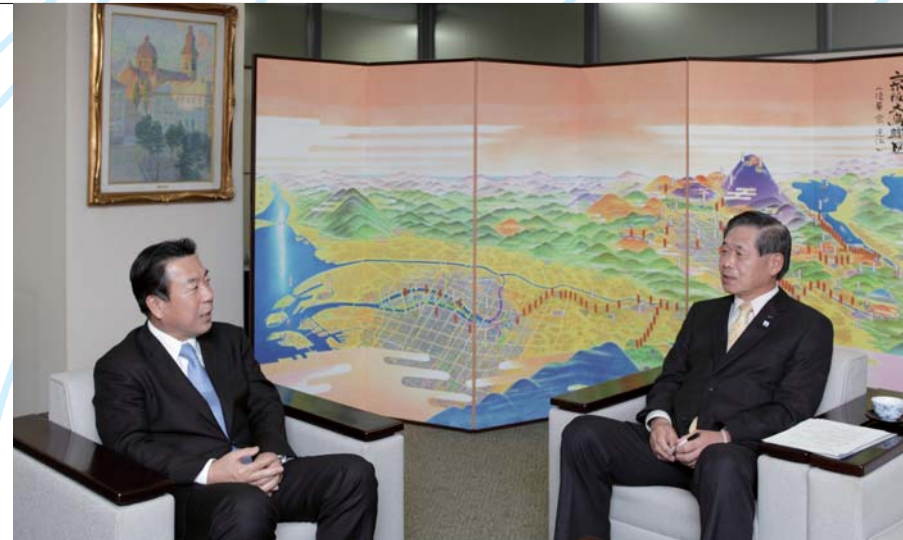
佐藤 ありがとうございます。京阪電気鉄道は“日本資本主義の父”といわれる渋沢栄一が1906(明治39)年に創立し、1910年4月15日、大阪・天満橋—京都・五条間(46.57km)で営業を開始しました。渋沢の起業哲学は、著書の『論語と算盤』に非常によく表れています。わが社の100周年について聞かれると、私が必ずお話しするのは、「100年たったからおめでたい」のではなく、「100年を機に、起業の精神に立ち返る」ということです。渋沢は孔子の『論語』を事業のバイブルとしました。後に続く私たちは『論語と算盤』をバイブルに、事業をやっていかねばならない。つまり論語は倫理道徳であり、ソロバンは事業。事業を通して社会貢献するということです。

■対談



経営トップの責任は、声なき声に耳を傾け、ときには会社の存続のために厳しい決断も下すこと。一方、経営を引き締めるだけでなく、社員が夢を持てる会社にすることも重要です。

佐藤 茂雄(さとう しげたか)
1941年神奈川県生まれ、大分県育ち。65年京都大学工学部卒業、京阪電気鉄道入社。広報課長、事業開発室部長、常務取締役などを経て、2001年代表取締役社長。07年から代表取締役 CEO。日本民営鉄道協会会長、大阪商工会議所副会頭を経て、10年4月から大阪商工会議所会頭に就任予定。文部科学省の学校法人運営調査委員会委員、関西大学経営審議会委員を務める。座右の銘は、明治時代の警視總監・川路利良が残した言葉、「声無き二聞キ 形無き二見ル」。



私が提唱しているのが「ハブ大学構想」です。首都圏が一つのハブだとすれば、関西圏にもたくさんの大学があり、世界に向けて発信する使命があります。



楠見 晴重(くすみ はるしげ)
1953年大阪府生まれ。78年関西大学工学部土木工学科卒業、81年同大学院工学研究科博士課程後期課程中途退学。82年関西大学工学部助手。専任講師、助教授を経て、02年教授。07年環境都市工学部教授となり、同年4月から学部長に。09年理系出身者初の関西大学学長に就任。学校法人関西大学理事。社団法人日本私立大学連盟常務理事、土木学会フェロー会員、物理探査学会理事、岩の力学連合会副理事長ほか。共編著書に「地圏環境情報学 地下を診る最先端技術」など。

◆伝統文化を支えてきた京都盆地の地下水

佐藤 下鴨神社の新木直人宮司がおっしゃるには、下鴨さんの糺の森の下には、水のかたまりがあるそうです。以前、30メートルの井戸を掘ったら、噴水みたいに水柱が立ったそうです。

楠見 下鴨神社の辺りは地質学的にも、良質の地下水が採れるところ。もともと下鴨神社自体、平安京の水を守るために生まれた神社といわれ、葵祭は都の水をまつお祭りです。このように京都は、水にまつわる文化がたいへん豊かです。茶道、酒造、友禅、豆腐、和菓子、京料理もそうです。実は、平安時代は1~2メートル掘ったら地下水が出ていたので、そういう井戸の遺跡は1万カ所以上も残っています。

佐藤 大阪も水都といわれますが、今も掘れば水が出てくるのですか。谷町筋の新清水寺(大阪市天王寺区)には、舞台や天然の滝まであって、明らかに京都の清水寺をまねているようですが……。

楠見 上町台地の水は洪積層から出てくるもので、良い地下水です。京都の地下水も洪積層から出てくるもので、良質で、名水とうたわれるものが多いのです。一方、洪積層より新しい地層である沖積層から地下水を採り続けると、地盤沈下を起こします。大阪は沖積層が厚く、昭和30年代以降の高度経済成長期に地下水を採りすぎて、大きいところでは5メートルから6メートルもの地盤沈下を起こしました。そこで地下水採取規制ができて、一般には地下水を汲み上げることができなくなりました。一度沈下した地盤は決して回復しませんから。

◆厳しい経営改革と同時に夢を持てる会社に

佐藤 そういった地下水の調査は、どのように行われるのでしょうか。

楠見 基本的には現地調査、フィールドワークです。机上では

無理ですね。学生を連れていって、現位置の地質、地下水の状況を見せます。八幡市や城陽市では、上水道で直径30センチ、300メートルくらいの井戸を掘っています。この1本で、だいたい1日2000トンを取ることができます。水1トンは、4人家族が1日に使う量ですから、これで8000人分の水が確保できます。それを八幡市は8本、城陽市は15~16本持っています。

佐藤 そんなに汲み上げて、枯渇したり、地下に空洞ができてしまいませんか。

楠見 地下水を適正に汲み上げるために継続して調査をしています。地盤の状態や全体の水の量、どれくらいの水が入ってきて、どれくらいの水が出るか、などを計算します。要するに、水の収支ですね。それをシミュレーションして、使える水の量をはじき出します。京都市では明治から琵琶湖疏水の水を使っており、地下水に頼っていないのです。ただし、民間の井戸はたくさんあります。京都では、なぜ地下水採取の規制がないのかというと、酒造や京料理など伝統文化との深い結びつきがあるからです。私は、京都が1200年も都であり続けた理由の一つは、地下から豊かで良質な地下水を比較的簡単に採れるからだと考えています。

佐藤 現地で調査といえば、私の仕事も少し似通ったところがあります。厳しい時代だからこそ、責任者が現場に行かないといけません。社長に就任して特に心掛けたことは、現場に足を運び「声なき声」、そこにある「真実」を聴き取ること、感じ取ることでした。

楠見 社長になられた2001年は、バブル経済崩壊の後遺症がいろいろと問題になっていたところで、大変だったでしょう。しかし就任後の数年で、利益率を上げられたのは大きな功績ですね。

佐藤 かなり荒療治をしました。問題を先送りせず、不良債権を清算し、厳しい経営改革を行いました。ただ私は負の遺産を処理しただけで、これからが正念場だと思っています。経営トップの責任は、声なき声に耳を傾け、ときには会社の存続のために厳しい決断も下すこと。一方、経営を引き締めるだけでなく、社員が夢を持てる会社にすることも重要です。そんな企画の一つが、大規模商業施設「くずはモール」の開発や、「駅のコンシェルジュ」の配置といった取り組みです。

◆大学生が地域活性の担い手になる

楠見 佐藤さんには、関西大学の経営審議会委員をお願いしています。また、文部科学省の学校法人運営調査委員会委員とし

て、全国各地の大学を訪問していらっしゃるそうですね。ずばり、今の大学生に何が欠けているとお思いですか。

佐藤 最近、「この国は大丈夫か」という危機感を持つようになり、文科省の委員をお引き受けしたり、沿線の大学に行ってお話をさせてもらっています。主な話のネタは福沢諭吉の『学問のすゝめ』です。福沢の教えで言うと、まず人望ですね。あいつに任せておけば大丈夫という人望のある人になるために、学生時代にしっかり学んでほしい。コミュニケーション能力を磨き、明るい顔で、ものごとに前向きに挑戦してほしいですね。最近の若者と接してみてもいまいけないと思うことは、すぐに否定語を使うことで、「やってみます」と言わずに「できません」と言う。一方、こちらが質問すると意外に素直で話し、話をしてる最中、私語が少ないのはどう理解すればよいのか、よくわかりません。

楠見 確かに学生は素直でまじめなのですが、コミュニケーション能力の低下は、目を覆うばかりです。携帯メールやゲームに慣れているせいか、自分のことを説明するのに、ワンセンテンスしか言えない。活字離れもひどく、新聞も本も読まない学生が多いというデータを見て愕然としました。

佐藤 一方、頑張っているなど感じる場所もあるんですよ。例えば、岡山県のある大学では、地元の商店街と協力して地域文化の掘り起こしをやっています。非常に頼もしく、将来性を感じました。

楠見 大学生が地域活性の担い手になる、良い例ですね。実は関西大学でも、同様の取り組みをしています。兵庫県の丹波市は人口7万人くらいで、過疎化、高齢化がどんどん進んでいます。そこで、関西大学の学生が活性化とふるさとづくりを一緒にやっています。先ほどの「現場重視」にも通じますが、学生にとってはフィールドワークになり、農山村の暮らしの体験学習ができますし、お年寄りとのコミュニケーションから多くを学びます。最近の学生は都会の子が多く、ふるさとがない。かわり続けることが大事で、卒業して結婚しても、子どもを連れて丹波へ帰りたり……そういうことを目指しています。

佐藤 それはいいですね。この度の開業100周年記念事業でも、関西大学(政策創造学部・深井ゼミ)の学生たちが、ひらかたパークのバラ園に目をつけ、手づくりの結婚式を提案してくれました。これは「ひら婚♪」として実現することになり、反響も上々です。こういうプロデュースは、若い人にしかできない発想で、たいへんありがたい。

◆「ハブ大学構想」と「考動力」で世界へ

楠見 最後に、関西大学に対して忌憚のないご意見をいただければ。

佐藤 非常に勢いがある大学だと思っています。「学の実化」という教育理念が根付いており、改革をどんどんやって、ブランド力もある。フィギュアスケートやアメリカンフットボールも強い。新キャンパスに新学部、大学院、初・中・高等部も開校する。われわれ経営者も、関西大学に学ばなければと思うくらいです。

楠見 外からそういう評価をいただき、ありがたく思います。少子化にもかかわらず、幸い、受験生はたくさん来てくれますが、改革はまだまだ。大学のグローバル化が求められるなか、私はアジアをターゲットにしていかなければいけないと考えています。そこで私が提唱しているのが「ハブ大学構想」です。首都圏が一つのハブだとすれば、関西圏にもたくさんの大学があり、世界に向けて発信する使命があります。とりわけ関西大学はアジアとの結びつきが強い大阪にあり、近くに京都や奈良がひかえ、高松塚があり、大阪城があり……日本の歴史や伝統を伝える最重要地域にあって、留学生は東アジア地域から約500人も来ています。そういうなか、関西大学が学生に発信している言葉が「考動力」、つまり自ら考え行動し、世界を切り拓け、ということです。「考動力あふれる関大人」に、世界で活躍してほしいと考えています。

さて、佐藤さんは4月から大阪商工会議所の会頭に就任されます。関西の学生たちが希望を持って、社会に飛び立てるように、関西を大いに盛り上げていただきたいと願っております。

佐藤 若者が生き生きと自分を成長させることができる企業を、経済を、社会を、沢田栄一や福沢諭吉に学びつつ、ともに作り上げていきましょう。

楠見 本日はどうもありがとうございました。

LEADERS NOW!

■リーダーズ・ナウ [在校生・卒業生インタビュー]

“全力プレイ、全力疾走、元気” 監督の教えを胸に、プロの世界へ

東北楽天ゴールデンイーグルスから2位指名。
創部以来、初の高卒プロ野球入り！

●関西大学第一高等学校 3年
西田 哲朗 さん

昨年10月のプロ野球ドラフト会議で、関西大学第一高等学校3年の西田哲朗さんが、東北楽天ゴールデンイーグルスから2位指名を受け、関大一高野球部創部以来初の高卒プロ入りを決めた。キャプテンとしてチームを率いてきた西田さんは、甲子園出場こそ果たせなかったものの、高校3年夏の府大会1回戦でサイクル安打を放つなど、勝負強さを備えた選手。野球部での取り組みやプロ入団への意気込みについて話を聞いた。



プロ野球ドラフト会議の日、西田さんは報道陣が集まる会見場の隣室でひとり待機していた。時間がとても長く感じられ、指名されていないのではと思い始めたとき、歓声があるのが聞いた。瀬野崇史監督が入ってきて「2位や、楽天や！」。かなりびっくりした。嬉しかった。監督と黙って握手を交わした。

瀬野監督との出会いは高校2年生のとき。第一印象は「熱血的」。元気さや熱血ぶりは、西田さんが「自分に足りない」と感じていた部分であり、それを監督の姿勢から学んだ。特にキャプテンに選出されてからは、毎日のように監督と話し合い、そのあり方やリーダーシップについて教わり、実行し、精神面を鍛えていった。「自分のことばかり考えている成長しない。キャプテンが先頭に立ち行動しないとチームはついてこない」。キャプテンとして常に冷静であるよう努め、チームメイトのこともよく見るようにした。「自分の練習が後回しになるのは辛かったけれど、得るものがたくさんありました」。チーム全体に気を配ることに伴い、自身の成績も伸びていったという。

関大一高野球部のよさはと聞くと、「『マナーのよさ』に自信があります」と返ってきた。チームがバラバラになった時期、西田さんは率先して“話し合い”の場を設けた。チームメイトと昼休みや練習後に集合し、意見をぶつけあい、「まず、自分たちにできることは何か」を考えた。そして、一見野球とは関係ないが、「マナーを意識する」ことから始めてみた。「電車でのマナーを守る、ゴミが落ちていたら拾う…これが僕たちのチームの持ち味になりました。チーム全員で物事に取り組むことで一致団結でき、周囲も応援してくれるようになったんです。『野球だけ



西田 哲朗—にしだ てつろう

■1991(平成3)年、大阪府茨木市生まれ。2007年関西大学第一高等学校入学。小学生のとき、関大一高のOBである久保康友投手(阪神タイガース)が甲子園で活躍する姿を見て、野球を始める。180センチ、76キロの体格を生かした長打力が持ち味。高校通算37本塁打、100を超える盗塁も記録し、走攻守揃った選手として注目されている。右投げ右打ち。守備位置はショート。

ではない」ことは、我が校ならではのよい面だと思います」

その団結力が発揮されたのは、高校3年生の春の大会。前年秋の大会では、ベスト8をかけての5回戦で強豪といわれる大阪商業大学堺高等学校に敗れた。中盤まで6点差でリードしており、あと1点でコールド勝ちという場面からのまさかの敗退だった。「僕らは絶対甲子園に出られるという自信があった。それが、気の緩みで一気に返されてサヨナラ負けしてしまった。この悔しさを胸に、大商大堺を倒すことを第一目標にして練習に取り組みました」。そして春の大会、1回戦で当たったのはなんとその大商大堺。以前よりも何倍もチームは団結しており、「このためにがんばってきた、その成果を出し切ろう」と試合に挑んだ。その甲斐あって、大量リードでの勝利。「この経験で自信がつき、夏の大会へと突き進むことができました」

プロ入団にあたり、西田さんは3割、30本、30盗塁という高い目標を掲げる。「厳しいプロの世界で、一から作り直すという思いです。1年目から1軍にあがるつもりでがんばります。瀬野監督の教えである『全力プレイ、全力疾走、元気』はどんな場面でも活かせることなので、忘れずに実践していきます」。関大一高時代に培った精神力やリーダーシップは、プロの世界でも遺憾なく発揮されることだろう。

デザイン力で 多極化時代の“極”に

「大阪のおっちゃん」と共通の泥臭さも大切だ」

●株式会社バルス 代表取締役社長
高島 郁夫 さん —経済学部 1979年卒業—

1992年、東京・天王洲にオープンした「Francfranc」(フランフラン)1号店のターゲットは、「25歳、ひとり暮らしのOL」だった。暮らしをカラフルに彩るインテリア・雑貨群は若い女性の圧倒的な支持を受け、今では国内外合わせて147店舗(2010年2月末時点)。感性豊かなライフスタイルを提案し、付加価値の高いデザイン力で時代の先端を走り続ける高島郁夫社長だが、実は「大阪のおっちゃん」に学んだ時代があった。



高島 郁夫—たかしま ふみお

■1956(昭和31)年、福井県生まれ。79年関西大学経済学部卒業。「Francfranc」を中心に「BALS TOKYO」「J-PERIOD」「About a girl」などのブランドで、デザイン性の高い事業を展開。今春、東京は銀座、青山に「Francfranc」の大型店、上海店をオープン予定。秋には新ブランドも立ち上げる。
www.bals.co.jp/



「大学時代はアルバイトに明け暮れて、授業にはほとんど出ませんでした。一緒に飲み明かした下宿の仲間とは連帯感がありましたが、同級生はなんだか子どもっぽく見えて仕方なかった。大学の勉強が社会と結びついているということが理解できず、それで楽しくなかったんだと思います。その一方で、体を動かせばお金が入ってくる。仕事をすれば失敗もあるけれど成功もある。自分が動いたことに対する跳ね返りがある。そのリアリティーが好きでした。だから、会社に入ってから仕事に没頭しました。休みなして夜遅くまでがむしゃらに働くことも、全く苦ではなかったですね」

福井県の家具メーカーに就職した高島さんは、大阪営業所に勤務。町の商人風の「大阪のおっちゃんたち」に「怒られて頭を小突かれながら」、多くのことを教わったという。2年後に東京へ移った高島さんは、次々に新しい企画を打ち出して営業・販売の実績を上げ、新規事業の子会社としてバルスを設立する。そして1996年にMBO(マネジメント・バイアウト)で親会社から経営権を取得して独立し、オーナー社長となった。02年にはジャストクック上場、05年東証二部上場、06年東証一部へ指定替えを果たす。その後、Francfrancは「他にない、おしゃれなインテリア雑貨がいっぱいの店」として、若い女性たちの注目の的となり、急成長を遂げた。その華やかな世界に目を奪われがちだが、高島さんは、小売業には「泥臭さ」が大切だという。

「どんなにかっこいい商品を扱おうが、基本的に物を仕入れて販売するという仕組みの中には泥臭いものがあるのです。ホコリが落ちていないか、商品が乱れていないか、挨拶をきちんとしているか、お客様の方をちゃんと向いて親身になって接客しているか。これらを必ずチェックし、感じ取るようにしていますし、口やかましく言っています」

バルスの企業理念は、デザインによって新たな付加価値を創造し、文化的で感性豊かなライフスタイルを提案すること。Francfrancのほかにも、「BALS TOKYO」「J-PERIOD」「About a girl」などのブランドを展開している。

「今は多極化の時代です。その極になれた企業だけが存在感を持ち、中途半端な会社は駄目になっていく。自分たちの領域で極になっていけばいい。世界で唯一無二の会社になれるんじゃないかと思いついてやっています」

高島さんは、卓球、野球、ゴルフ、サーフィンとスポーツ愛好家。ライフスタイルの中で大切な要素だそう。なかでもトライアスロンに本格的に取り組んでいる。「我々の仕事はプライベートが充実していないと、いい仕事はできない。会社にずっといて休みもなく働いているというのではなく、プライベートの充実度が仕事上でのアウトプットにつながるのです」

最後に関西大学に対して——。「大学の規模によるメジャー感ではなく、カラーとしてのメジャー感があればいいですね。関関同立の中でも関大はこういうところがいい、ここがすごい、といえるものを作り上げてほしい」

■研究最前線

経済学の立場から見た社会保障政策

医療費の給付と負担の可能性を探る

データから見えてくる医療保険制度——

●経済学部
佐藤 雅代 准教授

高齢化社会を迎えた日本において、本来、経済的にも精神的にも不安を軽減してくれるはずの社会保障制度は、複雑であるがゆえに理解しにくく、さらに不安を強める原因にもなっています。制度の充実・改革・見直しについての可能性を経済学の立場から模索し、国や国民一人ひとりが判断し選択できるよう、医療経済の全体像と各制度についてわかりやすく情報発信している経済学部の佐藤雅代准教授に話を聞きました。



■経済学をベースに医療を研究

——どのような活動をされているのですか？

以前取り組んでいた産業連関モデルという経済モデルによる分析には、年金や医療といった社会保障を反映するのが難しいという弱点がありました。また、一般的には医療関係者と経済学者が同じ土俵で話す機会もなかなかありません。そこで、社会保障を踏まえた上でモデル分析ができれば面白いのでは、と研究を始めたのが約10年前です。国立社会保障・人口問題研究所の연구원という経歴を活かし、各省庁のデータを調べたり、現地調査を行い、データの背後に何があるのか、現状とどこが異なるのか、医療にまつわる様々な可能性を探っています。

■生涯医療費を推計し、保険料負担について考える

——老人医療費の増加などが問題となり、医療保険制度の見直しが議論されていますが。

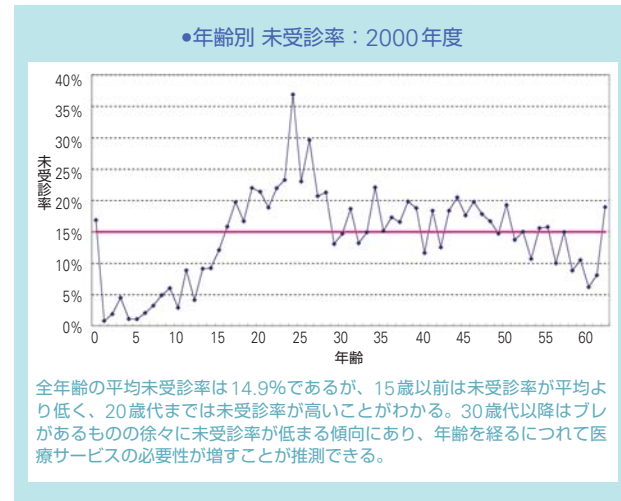
まず、私たちはどの程度の医療費が使われており、どの程度の負担がなされているのかを正しく知っておく必要があります。実際にかかった医療費がどのくらいなのか、保険にカバーされているため知らない人も多く、「私は保険給付よりも保険料支払いが多い」と漠然と不満に思っている人は少なくありません。

「年齢別未受診率」を算出したところ、20～30歳代までの人はあまり医療機関にかかっておらず、40歳代から受診率が上がることがわかりました。つまり、保険料を多く払っている世代の人たちは確かにあまり医療サービスを受けていないのです。

——若い世代は、いわゆる払い損なのではないですか？

「貰えないから払わない」では制度は崩壊します。1～2年間でみると未受診者は多いですが、6年のスパンでみると未受診者は全体の約6%でした。大きな病気をして高額な医療費がかかることもありますし、年齢を経るにつれ医療費が必要となっ

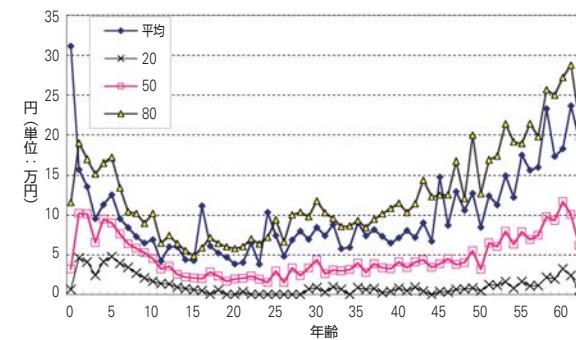
てくるという事実を知れば、一概に払い損とは言えないはずで、現状、所得以上の医療費を必要とした人は約4.1%を占め、自分や家族がその立場にならない可能性はありません。“支え合い”が必要であることもデータから読み取れます。



——個人差はあると思いますが、現在の日本では一人につきどのくらいの医療費がかかるものなのでしょうか？

生涯医療費を推計するために、健康保険の支払業務データ(個票)などを用い、個人及び世帯における医療費を計算してみました。『年齢別医療費』を見ると、実際に今自分が使っている医療費、今後使う予定の医療費がどれくらいなのか予想できます。日本人は生まれてから死ぬまでに、平均で約2000万円の医療費がかかり、そのうち約1000万円は60歳頃までに、残りの1000万円はそれ以降にかかることとされています。その総額に対して負担を算出してみると、多くの人が低い負担(保険料負担と自己負

●年齢別 医療費：2000年度



50パーセンタイルを概観すると、10歳までは1年間で5万円の医療費を必要とするが、以後約40年間については5万円以下で推移し、51歳以降上昇傾向を示している。仮に自己負担割合を3割で考えると、1年間に5万円の医療費ということは、自己負担金額が年間1.5万円、1ヶ月あたり1,250円という水準である。同様に考えると、1年間に30万円の医療費ということは、年間9.0万円、1ヶ月あたり7,500円の自己負担ということである。80パーセンタイル値でも30万円を超えないということは、多くの人々が非常に低い自己負担で医療サービスを受けているといえるのである。年齢別の医療費を積算して退職年齢である62歳までの医療費総額を推計した。その結果、医療費総額は、平均値で推移した場合は628万円、20パーセンタイルでは72万円、50パーセンタイルでは296万円、80パーセンタイルでは789万円。

担)で医療サービスを受けていることがわかります。

——私たちが考えなくてはならないことは？

今後、お金があっても医師がいない、医療器材が無いという事態になることも想定されます。なぜなら、医師をはじめとするサービス提供者や医療設備は、金額を変更するように一瞬で増減することはできないからです。どのような医療制度を選択するかは国民の判断に委ねられています。サービスを受ける側としては、ある程度は保険として将来のリスク回避ができるもの、自分だけでなく親や子、孫もフォローし、なおかつ経済も圧縮しない形で…と考えると、相応にかなりの金額が必要ははずです。公的な医療としてどこまで許容し負担すべきかを考えなければなりません。健康状態も所得も医療費も人それぞれであり、どのあたりで落ち着けるかは大きな課題でしょう。

——データを見るにあたり、隠れている注意点とは？

示された数値はあくまでも平均値であり、幅があるということも知っておいて欲しいと思います。そして、医療費は病気などで医療機関を受診した人にかかった金額であるということも忘れてはいけません。健康診断やメタボリックシンドローム対策などの保健指導、感染症予防のワクチン接種などにかかった費用は医療費に含まれておらず、病気になる手前で食い止めた人たちは評価されていないという現状があります。

■現役世代の医療給付削減による負担軽減について

——制度の見直しにあたり、どのような試みを？

仮に医療保険制度を、かかった医療費が少額であれば保険給付なしという軽費免責にした場合、どれくらい保険料を下げられるのか簡単なシミュレーションを行いました。結果、所得の5%以下の医療費を軽費として全額自己負担にした場合、42.2%分の保険給付が不要となり、保険料率を1%程度引き下げることが可能とわかりました。必ずしも個人の負担が軽くなるとは言えませんが、「病気を予防しよう」という意識が芽生え、「暇だから病院に行く」という考えはなくなると思われそうです。現在の日本で所得を捕捉するのは現実的ではありませんので、所得に応じた給付制限は困難ですが、不可能ではないと思っています。公費負担分や高齢者の医療費に対する拠出金などの財政調整の分を含めて、各人が自分の財布の中身を把握し管理するように、医療に関する給付と負担を把握するための方法なども検討しています。

■正しい情報を得て、自分で考える

——医療経済学の研究者として、学生へのアドバイス。

一度も病気にならない人はいません。医療をはじめとする社会保障問題は、私たち自身の将来の問題であると知り、意識して欲しいと思います。いたずらに問題だと騒ぐのではなく、様々な面から見て、知って、判断してください。疑問に思った際は誰に聞くのか、何で調べるのか。データを含め、感情論ではない正しい情報を得てください。今後、自分や家族がいかにも人生の最期を迎えるのかにも関わってきます。社会人の一人として、身近な問題として、制度や政策について考えていきましょう。

●総医療費および総保険負担分

世帯医療費の対総報酬比率：R	総医療費		総保険負担分	
	(百万円)	累積%	(百万円)	累積%
R=0	0	0.00	0	0.00
0<R<=0.01	42	3.79	32	3.58
0.01<R<=0.02	114	14.03	84	13.19
0.02<R<=0.03	132	25.87	97	24.19
0.03<R<=0.04	128	37.37	95	34.97
0.04<R<=0.05	86	45.06	63	42.19
0.05<R<=0.06	69	51.30	52	48.08
0.06<R<=0.07	69	57.47	51	53.91
0.07<R<=0.08	51	62.06	39	58.37
0.08<R<=0.09	31	64.86	24	61.11
0.09<R<=0.10	30	67.52	23	63.68
0.10<R<=0.15	96	76.18	79	72.63
0.15<R<=0.20	55	81.15	47	78.02
0.20<R<=0.30	50	85.66	43	82.90
0.30<R<=0.40	27	88.12	25	85.77
0.40<R<=0.50	19	89.81	16	87.57
0.50<R<=0.60	23	91.84	21	89.95
0.60<R<=0.70	24	93.99	23	92.58
0.70<R	67	100.00	65	100.00
Total	1,113		880	

対総報酬の5%以下の世帯医療費を軽費として医療保険の範囲外とした場合、42.2%分の保険給付が不要となる。42.2%の保険給付削減により、1.10%ポイントの保険料率引き下げが可能であり、世帯平均で約1.71%の保険料率負担で現役世代分の医療費を賄えるということになるのである。(軽費免責に該当する3,721世帯は平均して1.5万円の負担増であるものの、1,811世帯が負担増で、残り1,910世帯は負担減という結果になっている。きわどいところではあるが、40.7%の世帯に負担増を受け入れさせることが可能であれば、残りの世帯にとっては負担減となる。)

医療費が高額である場合を免責事項とする場合を考える。例えば総報酬の70%以上の医療支出が必要な世帯の医療費を医療保険の範囲外とした場合、世帯単位で考えると0.19%ポイントの保険料率引き下げ効果が見込める。先に示した軽費免責の場合と異なり、全ての被保険者にとって保険料率の引き下げの分負担減となるものの、免責になった高額な医療費をどこが負担するかが大きな問題であり、現実的な策とは言えない。

研究最前線

土壌から単離した AO1 株の能力解析

微生物を用いた環境浄化法を探求

生態系と共存できる浄化システムの構築にむけて

●化学生命工学部 生命・生物工学科
松村 吉信 准教授

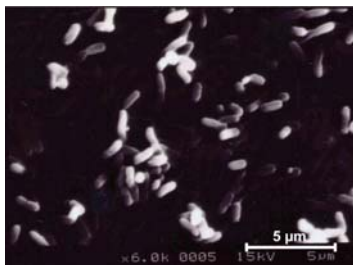
現在、人工合成化合物による環境汚染は、人体への影響だけでなく、生態系維持の観点からも問題となっています。その対応策として、汚染物質の排出規制や合成規制、焼却法の改善などによる人工的処理法の開発が進められていますが、これらでは生態系への負荷を軽減できません。自然界で生育する微生物を用い、生態系に優しい環境浄化法についての研究を進めている化学生命工学部の松村吉信准教授に話を聞きました。

微生物の環境汚染物質分解能力を解析

——地球環境において、微生物がもつ能力にはどのような可能性があるのでしょか？

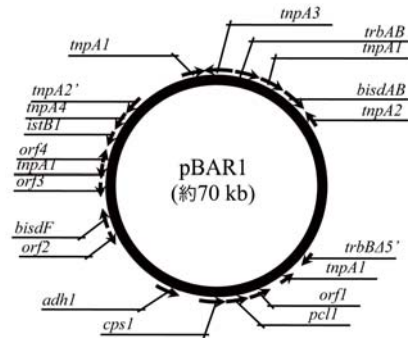
微生物は、生態系の中の物質循環を円滑に進める能力を持っています。人間を含む高等生物は様々な物質を栄養分として摂取しますが、その多くは高分子のまま環境に放出してしまします。微生物はこの食べ残しとなる高分子の化合物を細かな分子にまで分解し、動植物や人間が再使用できる形に変えています。つまり、環境を浄化する“生態系のお掃除屋さん”のようなものです。現在では人工合成された化合物の浄化にも微生物が働いていると考えられています。しかし、この浄化能力は個々では非常に弱く、特に人工合成された化合物を分解する微生物は数少ないと考えられています。私の研究は、微生物の「環境浄化の仕組みを理解」し、さらに「能力を高める」というものです。なかでも、プラスチックの原料に使用され、環境ホルモンの疑いがあるビスフェノール A (以下、BPA) を効率よく分解する AO1 株という菌についての研究を進めています。

——数多く存在する微生物のなかから、AO1 株に着目した理由は何？



● AO1 株細胞の電子顕微鏡写真
AO1 株は円柱状の桿菌、長さは約 1~3 μm。畑土壌より単離された

BPA を単独で分解する菌は私たちだけでも約 30 種採取しており、その中で土壌から単離した AO1 株は特に高い分解活性能力を持っていることがわかりました。実験室レベルでは、10mg/g の BPA 汚染土壌において BPA 量が 1/2 になるのに約 20 日、



● AO1 株に含まれるプラスミド pBAR1 の構造
プラスミドとは宿主染色体外の環状 DNA。様々な生理機能を細菌に付与している。pBAR1 はビスフェノール A を含む様々な環境汚染物質の分解に関与する遺伝子をコードしている

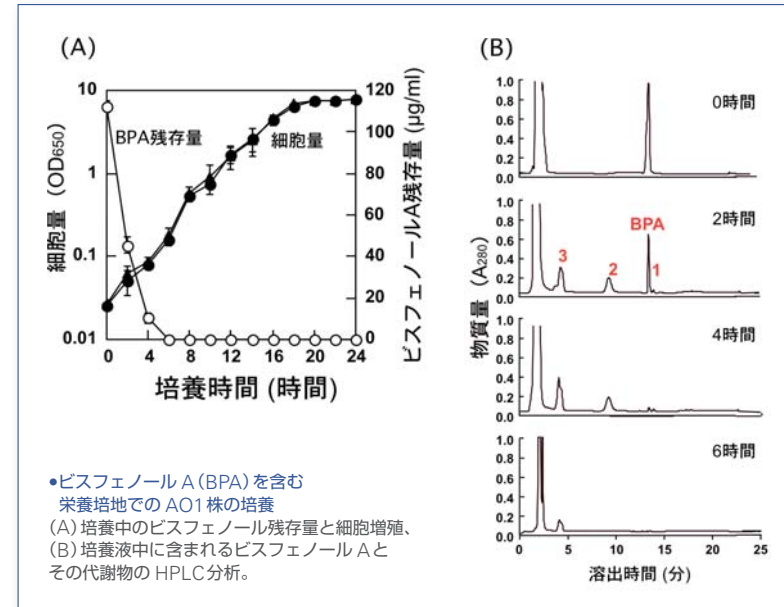
1/100 になるのに 60 日要するのに対し、AO1 株に特化しなかった場合は、1/2 になるのに 60 日要し、また、それ以上は浄化できません。このことから AO1 株の物質分解能力の高さが窺えます。

まだ原因は研究中ですが、他の菌は時間の経過と共に簡単に BPA 分解能を失っていくことも理由のひとつです。

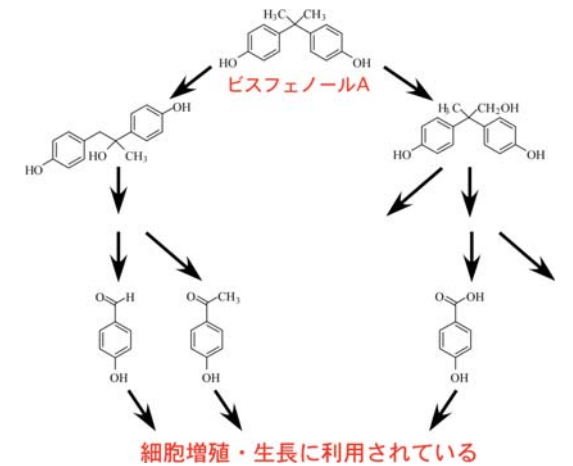
●世界初、BPA 分解酵素とその構造遺伝子を取得

—— AO1 株の BPA 分解機能とは？

AO1 株の能力を解析するためには、まず AO1 株が持つ機能とそれに関わる遺伝子を調べなくてはなりません。私たちは、AO1 株より、BPA 分解に関わる酵素やその構造遺伝子を発見し、取得に成功しました。これは世界でも初めてのことです。AO1 株は他の菌に比べると安定に BPA 分解能を持っているも



●ビスフェノール A (BPA) を含む
栄養培地での AO1 株の培養
(A) 培養中のビスフェノール残存量と細胞増殖、
(B) 培養液に含まれるビスフェノール A と
その代謝物の HPLC 分析。



● AO1 株のビスフェノール A 分解の経路
AO1 株細胞は、ビスフェノール A を細胞成分やエネルギーに変換している。

の、やはり時間の経過と共にその能力を失っていきます。AO1 株の構造遺伝子を解析する過程で、遺伝子の周りに多数のトランスポゾン(可動因子)が見つかり、このトランスポゾンの機能が中途半端に働いて遺伝子の一部が切れ、欠落して分解機能を不安定にしていると考えています。そうであれば、トランスポゾンの機能を消すことで、分解機能の安定化は可能となるはずであり、どのトランスポゾンに対処すればよいのかなど研究も進めています。

通常、遺伝子は染色体にあると言われてきましたが、物質分解能力を AO1 株に付与する遺伝子はプラスミド(核外遺伝子)にあることも明確になりました。これらの結果から、BPA 分解酵素やその構造遺伝子は、菌が本来持っている能力ではなく、別の菌から受け取った進化途中の産物であると推察できます。

● AO1 株の物質分解能力の実用化に向けて

—— AO1 株の能力はほかの汚染物質にも応用できますか？

AO1 株は、フェノール系化合物や、ダイオキシンのような塩素系化合物も分解できます。これは AO1 株単独で“ゴミ焼却場”と同じ働きができる可能性を示しています。また、AO1 株のこの能力は前述の酵素が担っており、プラスミドが重要であることも判明しました。現在、この酵素そのものやプラスミドの環境浄化への利用も検討しています。

また、人工的な組換え体を使わず、自然にその能力を生物へと与える方法も検討中です。遺伝子の鎖の一部が切れて欠落するという現象も起こっているはずで、逆にはほかの遺伝子が生物に入ってくるという現象も起こっているはずで、AO1 株の機能は、全てプラスミドの中にパッケージされており、これを環境中に存在するほかの菌に入れることで、その菌にも環境浄化能力を持たせることが可能ではないかと考えています。

——実際の土壌環境において、完全に BPA を分解することは可能ですか？

実験室レベルでは、通常の汚染よりも少し高い濃度の汚染程度であれば分解可能であることを確認しています。しかし、実験と違い、実際の土壌のなかには様々な孔があります。BPA が小さ



な孔に入ることができるのに対し、AO1 株は大き過ぎて入っていけないため、一部の孔には分解できなかった BPA が残ります。ただ、BPA が廃棄される場所は、実際に使用している場や工場、焼却炉、ゴミ処理場が中心です。そのため、土壌等に入り込む前に処理することは可能と思われます。また、AO1 株は生態系への影響も低いので、現在の浄化システムのなかに安定的に保持させる方法も検討しています。

——そのほか、今後の展望は？

AO1 株の遺伝情報をしっかりと解析し、それぞれの遺伝子がどういう働きを持っているか、その中でプラスミドの変化に関わるもの、汚染物質の分解に関与するものを分類していきたいと思っています。同時に、どの程度の環境浄化機能を保持させることができるのかも調べたいと思っています。

また、これは私の夢ですが、AO1 株をさらに進化させ、環境浄化に特化した“Ultimate Bacterium (究極の細菌)”にしたいと考えています。BPA が大量に利用されるようになってまだ数十年程しか経っておらず、それ以前に BPA を分解する菌がいたとは考えられません。AO1 株の分解能が BPA に特化していることを考えても、AO1 株は、自身が直接進化したもの、もしくは別の菌の遺伝子と組み合わせられて完成したものと推察できます。その過程が判れば、進化がどのように起こっているのかも理解できるのではないのでしょうか。

Topics ■トピックス [学内情報]

体育会
アメリカンフットボール部
特集

「関西大学カイザーズ」が関西学生アメリカンフットボールリーグ完全優勝・甲子園ボウル優勝・ライスボウル準優勝という偉業を達成

常に全力全開！ 緩むことなく「迷ったら攻める」



●監督 (関大1高教諭) 磯和 雅敏氏
●主将 (工学部4年次生) 大館 賢二郎 さん
●コーチ (スポーツ振興課・大学職員) 松浦 雅彦 氏

体育会アメリカンフットボール部の「関西大学カイザーズ」が、昨年の関西学生リーグで2強と言われる関西学院大学、立命館大学を倒し、見事完全優勝。続く甲子園ボウルでは、春の定期戦で完敗した東日本代表・法政大学への雪辱を果たした。そして今年1月3日、アメフト日本一を決定する日本選手権・第63回ライスボウルに出場し、社会人代表の「鹿島ディアーズ」と対戦。今年度にかけての思いやライスボウル出場に対する取り組みなど、磯和監督、松浦コーチ、大館主将の3人に話を聞いた。

倒し、チームに勢いがついてからは「より激しく、より速く、よりスマートに」を意識したチーム作りを進めました。大館 僕たちも「より激しく、より速く、よりスマートに」を必死にやり、それができたからこそ結果に結びついたのだと思います。また、迷って守ることは最大のミスと教えられていて、チームには「迷ったら攻める」と言い続けました。——甲子園ボウルで62季ぶりに大学の頂点に立ったわけですが、このような躍進を遂げることができた理由は？

磯和 まず一番は運が良かった。実力的には我々よりも強いチームがあったかもしれません。運が良くても、普段努力していなければそれを掴むことはできず、逆に、実力があっても運がなければ勝利を掴むことはできません。今年度、特別に新しい取り組みをしたわけではなく、60年以上続く先輩方の活動、ノウハウが蓄積され、花開いたのだと思います。また、大館君がチームにいろいろな言葉をかけ、その言葉やスローガンを大事にし、一年を通じてチームで目標を共有し続けられたことは、非常に評価できることです。

大館 8月の富山合宿で、毎晩4年次生だけのミーティング時間を設け、朝の4時までどんなことでもとことん話し合いました。このことで4年次生がひとつになることができ、それが力になったのではないかと思います。

——社会人相手のライスボウル。鹿島ディアーズに対して、どのような心意気で挑みましたか？

磯和 相手は素晴らしいチームなので、「点数は入れられてもしょうがない。それで気持ちが切れてしまったり、下を向くのではなく、気持ちを入れ直して次は止めに行こう！」と指導しました。試合前には、「自分たちのフットボールを、今までやってきたこと全てを出せるような試合を」と声をかけました。

松浦 鹿島とは戦力差も経験差もあり、勝ちにどれだけ執着でき



るか、今年度の最終を締めくくる試合として、僕らの生き様をどれだけ周りの人に提示できるかがポイントでした。「迷ったら攻める」に踏み出せるよう、チーム共有の意識作りに取り組みました。——ライスボウルではラスト4秒で逆転され、惜しくも準優勝に終わりましたが、ここまで突き進めた要因は？

松浦 今年度のチームの良い点として、前半勝っていても最後まで緩まないというのがあります。全体を通して、関西学生リーグで一区切り、甲子園ボウルで一区切りというのではなく、常により高いところを目指していたことが大きいでしょう。

大館 ここから社会人としての底力が出てくるはずだと思ひ、ゲームオーバーの笛が鳴るまで、攻め続けました。前半ちょっと勝ち越したからといって、勝ったとは思っていなかったことでここまで来ることができたのかもしれない。

——その他、今年度のチームに対し、素晴らしいと思ったことは？

松浦 コーチとして嬉しかったのは、QB原口君が自身の活躍よりもチームを勝たせるということを体現してくれ、甲子園ボ

ウルで228ヤードのランという最高のパフォーマンスを發揮してくれたことです。また、RBに転向した藤森君が、チームの勝敗を背負うプレッシャーのなかで全体をひっぱるプレーヤーへと成長し、名城大との試合で独走タッチダウンというビッグプレイを見せてくれた。その勇気は称賛に値すると思います。——今後、アメフトを通してどのような学生を育てたいと思われませんか？

磯和 関大でアメフトに携わった学生は、アメフトだけでなく、社会に出てから、一社会人として立派な人と言われる中身の伴った人間に育てたいです。

松浦 支援してくださる皆さんに対し、感謝の気持ちを持つ人間へと育てていかなくてはと思います。それと同時に、関大カイザーズの組織自体を、選手が「日本一になりたい」という目標を持ち、全力で挑戦できる場に…そして、選手が「目標は達成できる」と思える場にしたいですね。

——関西大学第一中学校、第一高等学校、関西大学で過ごした経験はどういうものでしたか？後輩にメッセージを。

大館 1年間主将を経験し、感謝しています。大学4年間は、楽しいこと、辛いこと、泣きたいこと…本当にいろんなことがありました。人間としても随分成長できたなと思います。来年度の4年次生は人数が多いのでひとつになるのが大変だと思うけれど、話し合いやご飯を食べに行くなど、できることはあると思います。チームが勝つためには自分がどうすればいいのかを考えて、頑張ってください。



●関西大学カイザーズ今期成績

	月・日	勝敗	対戦相手
関西学生リーグ	8・29	56 ○ 13	京都大学
	9・12	12 ○ 0	神戸大学
	26	17 ○ 13	関西学院大学
	10・12	14 ○ 7	立命館大学
	24	59 ○ 10	近畿大学
	11・8	46 ○ 0	同志社大学
西日本代表校決定戦	21	44 ○ 7	甲南大学
	29	42 ○ 6	名城大学
	12・13	50 ○ 38	法政大学
ライスボウル	1・3	16 ● 19	鹿島



——今年度のスローガン「覚悟～勝ちたいんや～」にかけた思いを聞かせてください。

大館主将 「覚悟」には、日本一になるための覚悟、そのための練習に対する覚悟…と、いろいろな意味合いがあります。どんな相手に対しても、常に勝ちたいという気持ちを持って挑めば、必ずいい結果に繋がるといふ思いでスローガンに掲げました。

——昨年度5位から一気に優勝へと駆け上がった関西学生リーグ。どのようなチーム作りやプレイを意識しましたか？

磯和監督 最初の4戦で非常に強いチームと対戦するうえ、甲子園ボウルの日程が例年より繰り上がり、例年より早いシーズンインとなりました。そのため、早い段階でのチーム作りが必要であり、8月上旬の富山合宿より練習を開始しました。選手には、初戦から勝ちを意識し、100%の力が出し切れるよう話しました。

松浦コーチ 「スピード、激しさ、スマートさ」を意識し、ランプレイではなく、クリーンなプレイを心がけるよう指導しました。この3つはどんな相手に対しても追求できることであり、この中から相手に勝れるものを探し、強調し、試合で發揮することにより、勝利が得られると考えたからです。関学、立命を

■社会貢献・連携事業／大学連携

伏見酒造組合と連携協力に関する協定を締結 酒蔵のある街づくりを推進



握手を交わす、山本源兵衛伏見酒造組合理事長(左)と楠見晴重学長

関西大学は、昨年12月2日、京都市伏見区の伏見酒造組合と連携協力に関する協定を締結した。地域との共生をめざす本学は、伏見酒造組合と歴史的・文化的資源の活用及び相互の交流を図り、教育・研究・社会貢献を推進する。調印式では、協定のきっかけとなった地下水に関わる同組合との受託研究をさらに深めるとともに、酒蔵のある特色ある街づくり、教育・文化振興等の分野でも協力し、活力あふれる地域づくりと大学の活性化に寄与することについて、研究代表者でもある楠見晴重学長と同組合の山本源兵衛理事長との間で改めて確認がなされた。

同受託研究は、酒造りに欠かせない「水」について、地下水保全や水質の適正管理等に関する研究を重ね、漸次成果をあげてきた。この伏見地区を含む京都盆地の地下水の調査によって、京都盆地の地下には、大きな「水瓶」の役割を果たしている岩盤があり、琵琶湖の水量に匹敵する211億トンもの地下水を貯留していることを導きだし、「京都水盆」と名付け、さらに広くその保全と活用に向けた研究を進めることになる。

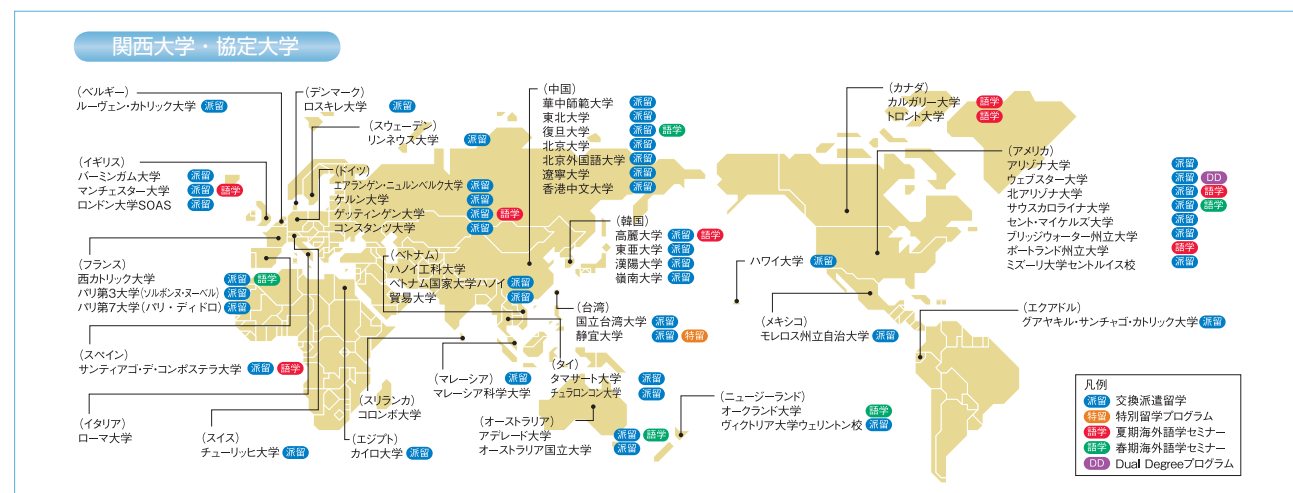
海外50大学と連携 — Globalizing Kandaiをめざして—

●ベトナム・ハノイ工科大学と国際交流に関わる基本協定を締結

関西大学は2005年より、国際化のいっそうの充実を図るため、「Globalizing Kandaiをめざして」というスローガンを掲げ、海外の50大学と協定締結することを目標に、世界各国から優秀な学生を集め、国際的なネットワークを構築。さらに多種多様なプログラムを提供し、本学学生を海外の大学や大学院へ積極的に派遣することで、世界に通用する人材育成に取り組んできた。そして、昨年11月25日、ハノイ工科大学と国際交流計画に基づき相互協力を行うことで合意に達し、これで協定締結校は50校目となった。ベトナムの大学との協定締結はこれで3校目。今後は、

それぞれの大学における研究・教育を推進し、かつ、この交流計画の実施によって、それぞれの研究者間・学生間の相互理解が増進されることを目的に、研究者、学生、学術情報及び資料の交換などを行う。

ハノイ工科大学は、1956年、ベトナム初の国立工科大学として創立。以来、エンジニアの訓練機関や国の工業部局のほぼ全てに対する科学研究機関としての役割を担っている。国際連携にも積極的に取り組んでおり、日本を含める諸外国の大学、研究機関、企業と連携している。



88th
ALL JAPAN HIGH SCHOOL
SOCCER TOURNAMENT

「月まで走れ！一高サッカー部」をスローガンに 関大一高サッカー部が全国大会で活躍！

第88回全国高校サッカー選手権大会で、関西大学第一高等学校が全国第3位に輝いた。関大一高が本大会に出場するのは10年ぶり3回目。これまでの大会では初戦敗退が続いており、今大会のチーム目標は「まず1勝」だった。しかし、初戦の鹿島(茨城)に勝ったことで勢いにのり、八千代(千葉)、藤枝明誠(静岡)を破り、大阪勢として32大会ぶりの4強入りを果たした。

1月9日、関大一高にとって初の東京・国立競技場で行われた準決勝では、生徒をはじめ保護者や同窓生ら約700人の大声援に支えられ、青森山田(青森)と対戦。球際の強さと豊富な運動量を誇る関大一高は、0-2で青森山田にリードを許すものの終盤で試合を支配し、久保綾祐さん、井村一貴さんの連続得点により、試合を振り出しに戻した。PK戦では涙をのんだが、持てる力を存分に出し切った見事な試合に、応援席からの拍手とねぎらいの言葉は途切れることがなかった。



ボールを奪い合う水田選手(青森山田戦)

■社会貢献・連携事業／産官学連携

●第14回先端科学技術シンポジウムを開催



1月28・29日の2日間、千里山キャンパスにて、関西大学先端科学技術推進機構主催の第14回先端科学技術推進機構シンポジウムが、社会連携部共催、近畿

経済産業局、関西大学科学技術振興会の後援により開催された。期間中は、シンポジウムなどを通じて、平成21年度の関西大学の先端科学技術に係る研究成果が広く企業・産業界、大学、官公庁・自治体、一般を対象に公開された。

特別講演はNPO法人環境・エネルギー・農林業ネットワーク理事長・京都大学名誉教授の芦田謙氏による「21世紀は資源争奪の時代—持続可能・地方分散型社会の建設に向けて—」。各会議室では、研究者、院生等による「新物質・機能素子・生産技術(N)」「情報・通信・電子(I)」「生命・人間・ロボティクス(B)」「環境・エネルギー・社会(E)」の4研究部門と研究プロジェクトによる研究発表が行われた。本年は、例年にも増して、企業、官公庁からの参加が増え、約1,000人が来場。盛会裡に終了した。

●ICIS第3回国際シンポジウムを開催

関西大学は平成19年度、グローバルCOE文化交渉学教育研究拠点(ICIS)に選定され、以来、「東アジア文化交渉学」の世界的拠点形成のために活動を行っている。



その一環として、文化交渉学の意義と可能性について様々

な角度からの検討を目的とするICIS第3回国際シンポジウムが、1月23日、千里山キャンパスにて開催された。テーマは「文化交渉としての宣教・布教—近代以降の新しい趨勢」。開会挨拶はICIS拠点リーダーの陶徳民教授。約100名の参加者が、国立民族学博物館教授の中牧弘允氏、北海道大学名誉教授の土屋博氏、復旦大学アメリカ研究センター教授の徐以驊氏による特別講演等に熱心に耳を傾けた。

●社会安全学部開設シンポジウムを開催

今年4月、関西大学はJR高槻駅前の高槻ミュージックキャンパスに、「安全」「安心」な社会の構築に貢献できる人材を育成するため、「社会安全学部 安全マネジメント学科」と「大学院 社会安全研究科 防災・減災専攻」を開設する。昨年12月5日、千里山キャンパスにて、新学部の開設を記念するシンポジウム「時間と安全—安全・安心を時間の視角から科学する—」が開催された。当日は社会安全学部長に就任予定の河田恵昭教授による開会挨拶に始まり、JR福知山線の脱線事故、阪神・淡路大震災、ボイラー破裂、災害時における瞬時の判断などをテーマに、京都大学防災研究所巨大災害研究センターの林春男センター長と社会安全学部就任予定者4名による講演が行われ、全国各地から約850人が来場した。

●人間健康学部が認可

関西大学堺キャンパスに開設予定の「人間健康学部」が、昨年12月24日付けで文部科学省の認可を受けた。「人間健康学部」は、地域コミュニティにおいて活動できるスポーツ指導者を養成する「スポーツと健康コース」と、健康増進と福祉支援の連携と地域における福祉文化を構築する「福祉と健康コース」の2コース。堺市との相互連携を含めた地域貢献型学部の構築をめざす。

KANDAI NEWS

■関大ニュース・第21回オリンピック冬季競技大会(2010/バンクーバー)特集

2010 VANCOUVER

XXI Olympic Winter Games

高橋選手が銅メダルを獲得 織田選手も7位に入賞

バンクーバー五輪で高橋大輔さん(大学院2年次生)と織田信成さん(文学部4年次生)の関大コンビが活躍しました。高橋さんはフィギュア男子で日本男子史上初のメダルを獲得。また織田さんは初出場にもかかわらず7位入賞を果たしました。



◀ショートプログラムの高橋選手の演技

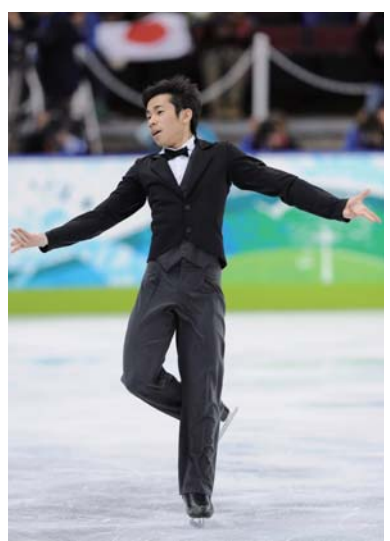
日本時間で2月17日に行われたショートプログラムでは、高橋さんはノーミスの演技で自己ベストの90.25点を出し、第3位。また、織田さんも84.85点で第4位となり、両選手とも首位との差が6点以内という絶好の位置につきました。

そして、2月19日のフリー。20番目に登場した織田さんは競技中に靴ひもが切れるというアクシデントがありましたが、会場の温かい手拍子に乗せられる

フリーでチャップリンを演じる織田選手▶

ように、最後まで滑りきりました。また、高橋さんは冒頭の4回転ジャンプこそ失敗しましたが、その後のジャンプはきっちり決め、豊かな表現力と世界一と言われるステップで観客を魅了。イタリア映画音楽『道』をしっかりと演じきって、最後はガッツポーズまで飛び出しました。一昨年のひざの故障から見事に復帰し、前回トリノ五輪の8位の経験をもとに、日本男子悲願のメダル獲得となりました。

現地向向いている関大応援団の楠見晴重学長からは「高橋君は銅メダル、本当によかった。また、織田君はアクシデントもあったが、最後までよくがんばった」とねぎらいの言葉がありました。



公開練習会・壮行会を開催

1月12日、公開練習会と壮行会が開かれました。午前中にアイスアリーナで行われた練習会には、約700人が観戦。最後の調整に入った2人の動きに、場内から歓声が上がりました。また午後にはBIGホール100で壮行会を開催し、学生、教職員約1,000人が参加。甲子園ボウルで優勝したアメリカンフットボール部員も激励に駆けつけました。

楠見学長、応援団長ら7人が現地で応援



2月15日、高橋さんと織田さんに熱い声援を送るべく、楠見晴重学長、田中成典学生センター副所長、寺内俊太郎校友会会長及び新旧の応援団長ら7人の関大応援チームがバンクーバーに向きました。大阪よりやや暖かい気候の中、会場では、関大生が寄せ書きした応援メッセージを掲げて応援を繰り広げ、両選手を大きく激励しました。また、学長をはじめ、応援団長の森山佳広さんと前応援団長の鈴木那和さんへの取材も多く、現地でのメディア対応に笑顔で応じました。

バンクーバーに向けて大声援

「バンクーバー五輪・高橋大輔さんと織田信成さんの応援会」が2月19日、総合学生会館「メディアパーク凜風館」で開かれました。ショートプログラムで高橋さんは3位、織田さんは4位と2人ともメダル獲得が濃厚であったため、会場は約700人の学生をはじめ、教職員、地域住民で満員になりました。日頃から練習を共にする、アイススケート部副主将の澤田亜紀さんや4大陸フィギュアスケート選手権2位の町田樹さんも参加。メガホンなどの応援グッズを手に、バンクーバーに向けて大声援を送りました。



高橋選手と織田選手に大声援を送る学生や教職員、地域住民の方々